

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 7 年 9 月 2 4 日

福島県知事 殿



提出者

住 所 福島県会津若松市門田町工業団地13番地

氏 名 株式会社たなか商会
代表取締役 小山 裕一

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0242-36-7890

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他の処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社たなか商会
事業場の所在地	福島県会津若松市門田町工業団地13番地
計画期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	中分類 職別工事業 小分類 その他職別工事業
② 事業の規模	完成工事高 66,000千円
③ 従業員数	9人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	解体工事現場→がれき類（破碎） 解体工事現場→がれき類（石綿含有産業廃棄物）（埋立） 解体工事現場→木くず（破碎） 解体工事現場→ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（焼却・選別） 解体工事現場→紙くず（焼却・選別） 解体工事現場→廃プラスチック（圧縮、切断）

（日本産業規格 A列4番）

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

廃棄物担当役員（代表取締役）



産業廃棄物統括責任者（常務取締役）産廃処理の計画・管理



産廃管理者（現場代理人）産廃処理の委託・管理・確認



廃棄物担当（総務）

（マニフェストの交付・管理・集計）

↓
廃棄物担当（現場）

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】 ※別紙1参照		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	（これまでに実施した取組） これまで、特に取り組みを行っていなかった。		
②計画	【目標】 ※別紙1参照		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 受注も含めた現場施工計画を検討し、廃棄物の発生量の抑制を図る。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 解体現場から排出される廃棄物を、現場で分別し、各処分場に運搬して
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 分別解体と手選別をさらに徹底し、リサイクルや減量を図る。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 該当なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 該当なし		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 該当なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 該当なし		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 該当なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 該当なし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】 ※別紙2参照		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

(第5面)

②計画	【目標】	※別紙2参照	
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工
事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が
分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの
連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間
処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理
を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を
記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第
6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設
置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業
者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理
委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類
が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき
内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」
を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙 1

①現状【前年度（令和6年度）実績】							
産業廃棄物の種類	がれき類	がれき類 (石綿含有産業廃棄物)	木くず*	ガラスくず、コンクリート くず及び陶磁器くず*	紙くず*	廃プラスチック	合計
排 出 量（t）	1,067.16	12.80	169.35	13.83	5.10	7.78	1,276.02

②現状【今年度（令和7年度）実績】							
産業廃棄物の種類	がれき類	がれき類 (石綿含有産業廃棄物)	木くず*	ガラスくず、コンクリート くず及び陶磁器くず*	紙くず*	廃プラスチック	合計
排 出 量（t）	960.00	11.50	150.00	12.50	4.50	7.00	1,145.50

